

# 琴海中央公園探鳥会

谷口秀樹

【日 時】 2020年2月16日(日) 10:00~12:00  
【集合場所】 現地駐車場  
【リーダー】 谷口秀樹(090-5295-1931)

毎年恒例の探鳥会を開催します。ここでの探鳥会もすっかりおなじみになってきました。駐車場やトイレが完備されており、海や丘、田畑がセットされたいい場所です。時々、トラツグミやオジロビタキなど中々出会えない鳥が出現するのもここの特徴です。

さて、ここで見られる鳥たちの紹介をしていきます。まず、駐車場や、丘を回っている小道沿いに見かけるのは、留鳥のエナガ、シジュウカラ、ヤマガラなどです。冬のこの時期だとルリビタキやミソサザイ、シロハラなどが見られることもあります。今季多く飛来しているメジロ、ヒヨドリ、ククイタダキも探してみましょ。特にククイタダキは最近



(写真:ククイタダキ)

出会いの少ない鳥です。しかし、対馬や大村、長崎などでも観察されているので大いに期待が持てそうです。この鳥は、針葉樹が好きですので、公園内に多く見られる杉の木を探してみたいと思います。虫のように聞こえる声が聞こえるとチャンスです。バードリサーチの鳴き声図鑑などを参考に予習して



(写真:ミソサザイ)

るのもいいですね。同じ場所で見られるメジロよりもさらに小さい鳥です。名前の由来となった頭の菊模様が見られるといいですね。同じく、日本で最小クラスの鳥ミソサザイも昨年見られました。この鳥は、全身チョコレート色で足下の藪を好むので中々見つけにくい鳥です。ウグイスに似た「チュッチュッ」という声をよく出しているのでそれを頼りに探してみたいと思います。

次に公園の北側に広がる海で見られるのは、サギやカモメ、カモ、カイツブリ、ウ等の水鳥です。アオサギ、コサギ、ダイサギなどが水辺にたたずみその足下にはカルガモ、マガモ、ヒドリガモなどが見られています。海上には、ウミアイサやカンムリカイツブリ、ハジロカイツブリの姿。真珠養殖の筏には、カワウの群れとセグロカモメ、ウミネコが見られます。水鳥ではありませんが、海に突き出た枯れ木にはミサゴや、遠く鉄塔にハヤブサが止まっていたこともあります。

最後に田畑で見られるのは、アトリやカワラヒワ、シロハラ、ツグミ等です。電線には、モズやチョウゲンボウ、キジバトが止まっていることもあります。意外に、ヒバリの記録がありません。この鳥が住むには狭いのでしょうか。周回路の途中にある東屋からの観察になるので、見下ろしながら探すことになります。見晴らしはいいのですが、背景に溶け込んで中々見つけることができません。チョウゲンボウやノスリなどの猛禽類から身を守る保護色なんですね。



(写真:モズ)

2月半ばというとまだまだ寒さが厳しい頃ですが、すでに光は春になってきています。それを感じてか、鹿児島の出水に飛来しているマナヅルがすでに渡りを始めている頃。ここで観察したことはありませんが、少し南の中山ダムでは2月の探鳥会で観察したこともあります。長崎半島で12時前後に観察することが多いですが、運がいいとここでも見られるかもしれません。空から聞こえてくる声にも注意していきましょう。また、この時期には越冬しているイワツバメが観察されています。今期は、各地で情報があります。昨年探鳥会でも見られているので、期待が持てそうです。ツバメのように飛んでいて、腰が白く「ビルビル」と鳴くのが特徴です。



(写真:イワツバメ)

まだまだ寒さが厳しい中、防寒の準備をして早春の探鳥会に参加してみませんか。

